

【情報科学技術関連】: 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

資料 2 - 1
情報委員会 (第23回)
令和 4 年 2 月 10 日

第6期科学技術・イノベーション基本計画:

第2章 Society 5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策

2. 知のフロンティアを開拓し価値創造の源泉となる研究力の強化

(2) 新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)

社会全体のデジタル化や世界的なオープンサイエンスの潮流を捉えた研究そのもののDXを通じて、より付加価値の高い研究成果を創出し、我が国が存在感を発揮することを目指す。特に新型コロナウイルス感染症の研究においても、論文のオープンアクセス化やプレプリントの活用が更に拡大する中、研究プロセス全般で生まれるデータについて、戦略性を持って適切な共有と利活用を図るとともに、それによりインパクトの高い研究成果を創出していくための研究基盤の実現が求められる。

研究の現場において、高品質な研究データが取得され、これら研究データの横断的検索を可能にするプラットフォームの下で、自由な研究と多様性を尊重しつつ、オープン・アンド・クローズ戦略に基づいた研究データの管理・利活用を進める環境を整備する。特にデータの信頼性が確保される仕組みが不可欠となる。また、これらに基づく、最先端のデータ駆動型研究、AI駆動型研究の実施を促進するとともに、これらの新たな研究手法を支える情報科学技術の研究を進める。

2014 (FY26)	2015 (FY27)	2016 (FY28)	2017 (FY29)	2018 (FY30)	2019 (FY31)	2020 (FY2)	2021 (FY3)	2022 (FY4)	2023 (FY5)	2024 (FY6)	2025 (FY7)	2026 (FY8)		
新たな研究システムの構築(オープンサイエンスとデータ駆動型研究等の推進)							前	研究データ利活用のエコシステム構築事業					中	後

研究DXによる、新たな科学的手法の発展や魅力的な研究環境の構築、生産性の向上を実現

今年度審議する研究開発課題

【情報科学技術関連】: 未来社会を見据えた先端基盤技術の強化

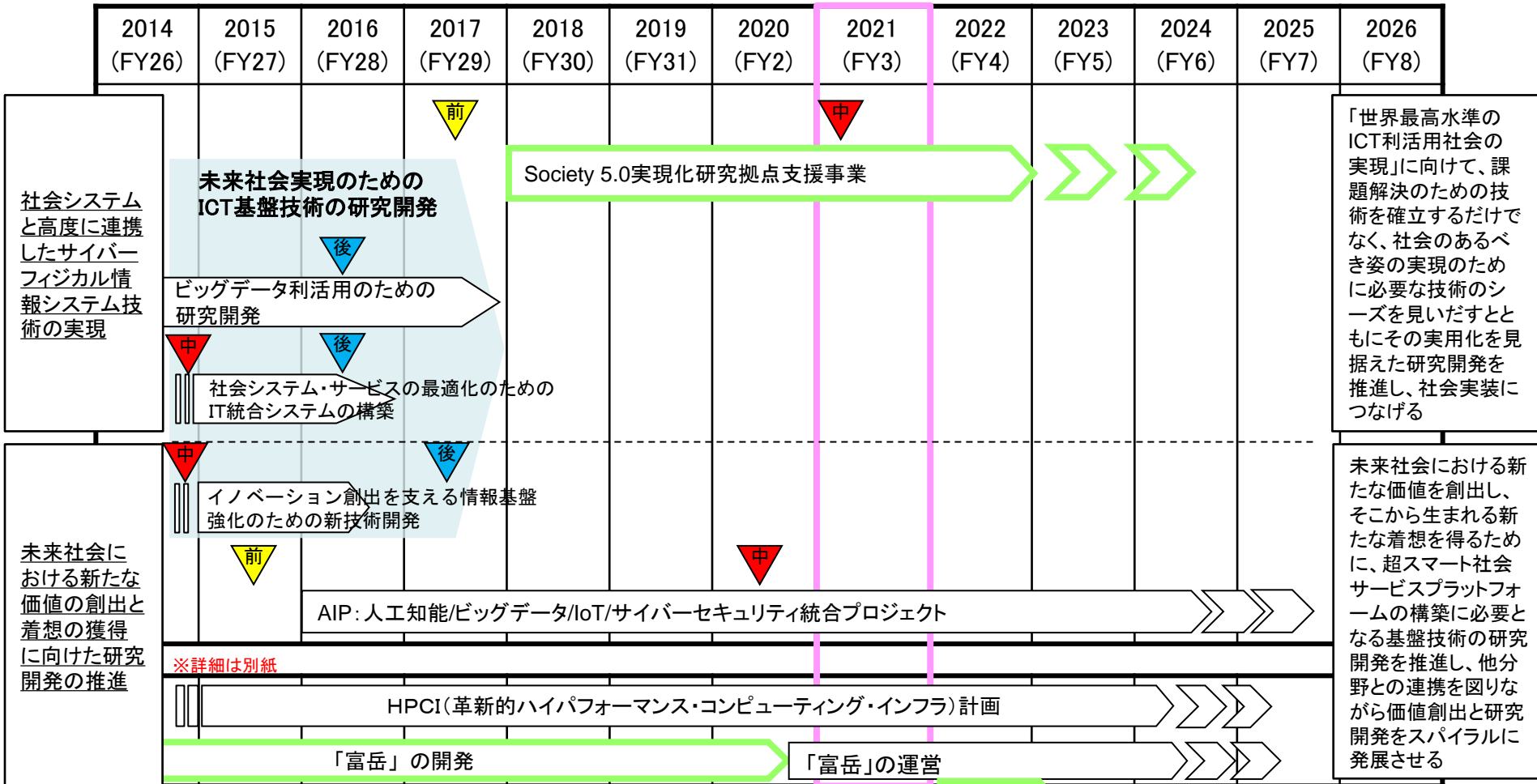
研究開発計画:

大目標

ICTを最大限に活用し、サイバー空間とフィジカル空間(現実世界)とを融合させた取組により、人々に豊かさをもたらす「超スマート社会」を未来社会の姿として共有し、その実現に向けた一連の取組を更に深化させつつ「Society 5.0」として強力に推進し、世界に先駆けて超スマート社会を実現していく。このため、国は、超スマート社会サービスプラットフォームの構築に必要なとなる基盤技術及び個別システムにおいて新たな価値創出のコアとなり現実世界で機能する基盤技術について強化を図る。

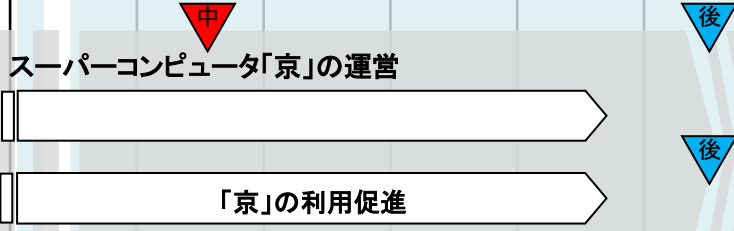
大目標達成のために必要な中目標

我が国が世界に先駆けて超スマート社会を形成し、ビッグデータ等から付加価値を生み出していくために、産学官で協働して基礎研究から社会実装に向けた開発を行うと同時に、技術進展がもたらす社会への影響や人間及び社会の在り方に対する洞察を深めながら、中長期的視野から超スマート社会サービスプラットフォームの構築に必要なとなる基盤技術の強化を図る。

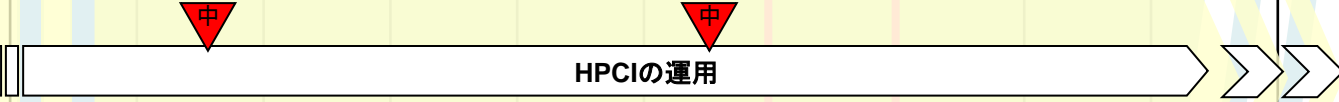


2014 (FY26)	2015 (FY27)	2016 (FY28)	2017 (FY29)	2018 (FY30)	2019 (FY31)	2020 (FY2)	2021 (FY3)	2022 (FY4)	2023 (FY5)	2024 (FY6)	2025 (FY7)	2026 (FY8)
----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	----------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------	---------------

HPCI(革新的ハイパフォーマンス・コンピューティング・インフラ)計画



HPCIの整備・運営



HPCI戦略プログラム

スーパーコンピュータ「富岳」の開発



「富岳」成果創出加速プログラム

未来社会における新たな価値の創出と着想の獲得に向けた研究開発の推進

多様なニーズに応える革新的な計算環境を構築し、その利用を推進

今年度審議する研究開発課題